あごら札幌

郵便振替　02710-3-570　あごら札幌

No. 242

あごら札幌 連絡先 細田 (011) 644-2927

今月通信担当 T

《今月の内容》

女性たちが悩むシーズン …1.2
安物買いをしなさんなる
紅茶の時間 …4.5
本と暮らす …6.7
ミッチーが好き！…7
Information …8

2002.8.15.発行　　通信購読料　1200円（年間）

女性たちが悩むシーズン

T

現在勤めている職場では学生 10 人のクラスの講義を担当しているが、その中に、いつもちょーセクシーな服装をしてくる女子学生がいる。基本的に袖のあるものはあまり身につけない。夏が近づくにつれそのイキオイは増し、肌の露出度は高まる一方。単にキャミソールの類を着ているだけにとどまらず、明らかにブラジャー（見せてもよいタイプのものではなく普通の、下着として使うブラですネ。）が見えている時もしばしばある。（それは本人にとっては大したことではないのかもしれないが、それだけはちょっとやり過ぎなンじゃ・・・？と思う私でしタ。）でも、イマドキの 18 歳の女の子としては珍しくないファッションだし、夏は暑いのだからそりゃ身に付けている布地が少ない方が快適だろーし、そしてやっぱり、ちょっと大胆＆セクシーな服装をすることがとても気持ちよくて楽しいおトシゴロだし、何より、18 歳の女の子が自分のしたい格好を自分で決めてするのはあたりまえだと思うので、私は「ナンかスゴいことになってるなあ～」とちょっと思うけれど、それだけで特別気にはしていなかった。

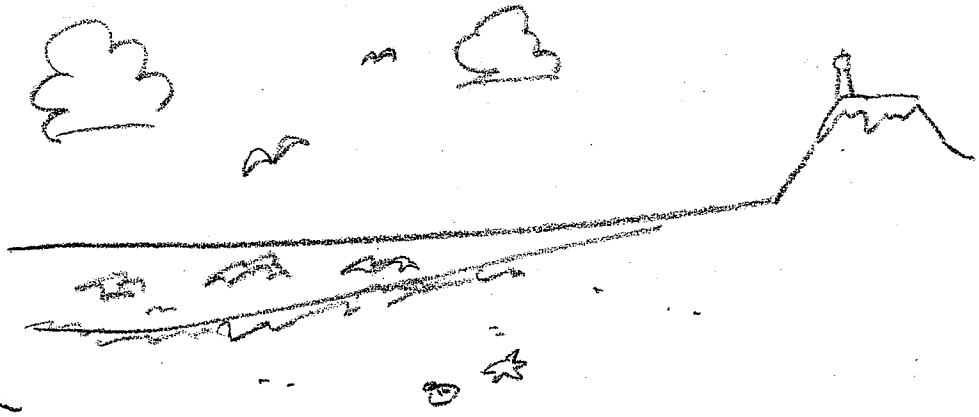
けれどもある日、職場のある大先輩が、その服装はいくら何でも認められない、と言ってたしなめた。言われた学生の方は、「えっ？どうしてどうして？」と、何がよくなかったのか全く解らない風だったそう。その先生は、クラスの男の子たち（8 割が男子学生）が目のやり場に困ってかわいそうだ、と言うのだった。私はその話を聞いたとき、一方でその女子学生の服装が行き過ぎだと

いう見解もわかるけれども、他方で何となく腑に落ちないものを感じた。男子学生が被害者・・・？彼らが何か被害を受けているのだろうか・・・？仮に、彼らが「目のやり場に困ってかわいそう」な目に遭っている、としても、女性が肩を出していたらそれだけで直ちにミョーな気分になるというその発情装置（←「上野千鶴子さん語」お借りしましタ。）こそが問題では・・・？

この問題は気温の高い季節がやってくると毎年のように浮上してくるもの。そして既に大体解決がついた問題なのかもしれない。でも、私の中ではまだスッキリしていないものの一つだ。理屈としてはきちんと説明できないけれど、単純に「感情」的に、彼女が好きな格好をさせてあげればいいじゃない、という気持ちが真っ先にあるのだ。それは、私自身がそういう気持ちを持っているからだと思う。私もセクシーでキュートな服が大好きだ。そして、私は自分の好きな格好をしたい。自分の着るものを規制されたくない。規制されて自分が着たくない服を着せられたくない。それだけだ。ただ、社会で生きていく以上、自分と会う人が自分に対して抱く印象というものも一応考慮する。（それくらいはちょっと考えないとネ。）でも、それはやっぱり自分のために、ではないかなあ。。。彼女がその日会う人に、「露出し過ぎじゃない？」なんてひんしゅくをかったとしても、彼女にとってその人が、そういう印象をもたれたって別に構わない、という人ならそれで問題はないのでは、と思う。

そして、その人のシュミの問題、価値観の問題でもあると思う。田嶋陽子さんがよく、「オンナ」をやりたい時もある、でもずっと「オンナ」やってばかりいると疲れる、と言っている。で、中には学校に来る時「オンナ」やっていたい人もいる。それに対しては、田嶋さんと同じく私も「それじゃあ疲れちゃうんじゃない？」って感じもするけど、これが男だったら、もし胸も露わなシャツを着てHiromi Go みたいな格好で授業を受けに来る男子学生がいたら。。。「センスないよね」って苦笑される（あるいはとっても好評・・・？）問題ではないかと思う。少なくともそれほど非難されることではないんじゃないかなあ。。。

ところで、学校ではなく職場で「オンナ」やっていたいひともいる。国会にもよくいる。入閣の記念撮影のときオペラの舞台衣装みたいな格好しておさまっていたひとはその代表。勘違いも甚だしいですネ。



安物買いをしんさんな

K．S

昨年死亡したＮが最後の男だと思って一緒になった。ひょろっとしていて頑丈というより“柳に雪折れなし”のイメージだったから、がんを発病して半年でなくなるなんて考えられなかった。習慣となっていた毎日の飲酒と喫煙が、胃や肝臓のがんに結び付くとしても、死ぬのはまだまだ先だと思っていたから。

同居してから１年半は、あまりに健康であったために一緒に旅をしようという考えなど浮かばず、診断即入院となってからの半年間は闘病で精一杯で旅行どころではなかったが、私たちの日常生活のいろいろな場面でたくさんの思い出が残った。とはいえ、車のＣＭで素敵な風景が写ると、一緒に（生きて）いれば必ず行ったであろう旅を思って涙が出た。わらび、タケノコ、行者にんにく、落葉きのこといった山菜を見ると山歩きの好きだったＮを思い出した。買ってもらった服を見ては、もっと素直に喜んであげればよかったと後悔した。もう二度と会えないという現実を受け入れることが一番辛かったが、（今日のように）約１０カ月経ってもまだ涙が止まらない私のことを見てくれているＮがどこかにきっといるような気がする。最後の言葉が聞けずお別れもできなかったせいか、くよくよ思い悩んで不眠や胃痛が続いていたが、やっと落ち着いてきたこの頃である。

先月、１１年ぶりで島根と広島へ行って来たのも、私だっていつ何があるかわからないという感情に衝き動かされたからである。島根の母は新しい道路やあちこちの施設を車で案内してくれた。自慢げな母に、「立派になってもどうせ人がいなくなるから税金の無駄遣いだ」などと、いつまでも憎まれ口をきく可愛げのない娘であった。広島では、昔の同僚（女性）と今年妻を亡くした元上司と３人で夕食を食べた。二人とも５２歳とのことで、仕事はそれぞれ年齢なりのものをまかされるので大変そうでもあり、充実しているようでもあり、いずれにせよ公務員は恵まれていることを再認識し、昔は割勘に拘ったが、あっさりと御馳走になることにした。退職してからのことをかい摘まんでそれぞれが語り、懐かしい時間を共有した。元上司のＮは、「１０年のうちにこんなにいろいろな経験を積んだＳさんだから、これからももっといろいろあるだろうね」と昔どおりの皮肉を込めた言い方をし、「安物買いをしんさんな」と今後を戒めてくれた。安売りではなく安物買いと言ってくれたのは、人生の選択をするのはあなたですよとのことか。ああ私はずっと一人かぁと落ち込んだり、焦ったりしたとき、Ｎの言葉を思い出している。

紅茶の時間

谷百合子

（プチ原生花園）……人呼んで我が家の庭のこと。ゼラニューム、百合の花、あじさい、ズッキーニ、いんげん、小松菜などなどが、元気いっぱいの草たちと共生している。トンボが竿の先に止まっていて、もう夏も終わり。小さい庭から、いろんなエネルギーをもらっている。毎朝小さな苺をつんで、ヨーグルトと一緒に、ご馳走になり、青じその葉で、ドレッシングを作ったり、ハーブティーを楽しんだり、原生花園は、猫たちのベッドルームにもなっている。

（ゴミは宝物）……知人からEM菌の情報をもらい、今、生ゴミ処理に精出している。生ゴミはEMぼかしという米ぬかと混ぜたもので発酵させ、土にもどしている。バケツに生ゴミがたまっていくのが、楽しみである。不思議に、いやな匂いはしない。EM1と米のとぎ汁は、お風呂に少し入れて、台所や窓ガラス、トイレにスプレーすると、洗剤不用である。湖や川も、EMでヘドロが消えているという。大雪山のトイレもEMで浄化するという記事（道新）が掲載されていて、EM生ゴミ処理法を行政で取り組んでいる地方も増えているという。

（映画・アレクセイと泉）

友人が主催した室蘭の上映会に出かけた。施設の子どもたちや、反原発、反核の人をはじめ、顔ぶれが、ご近所ふうで、しかも、拍手があったり、笑いがあったり、肩寄せあっての上映会で、とても楽しかった。大盛況で友人もほっとしていた。札幌では、もう、このような上映会は無理なのかも知れない。都市は、いろんなものを失っている。

映画の内容は、1986年、チェルノブイリ事故後、そこから北東へ180km離れたベラルーシ共和国のブジシュテ村にも移住勧告が出された。村人600人のほとんどが村を去った。しかし、55人の年寄りとアレクセイ（青年）が残った。村の名前は地図から消えた。

すべてが汚染されたなかで、村人の飲む「泉」だけが、放射能ゼロであった。大地からわき出る水は、100年以上の歳月を経て、再び地上に出てきていたのである。

人間の愚かさと、自然の深さに言葉を失ってしまう。映画は、それをテーマにしていたのか、原発に対する怒りや、政府に対する反論はひとこともなく、ロマンチシズムに流れている傾向があって、私としては、不満も残ったが、映像の美しさ、人々の素朴な生き方に、正直感動してしまっていた。

しかし、問題は何も解決していない！

100年後には、この泉には放射能が検知されるのかも知れない。そして、私のまわりでも、泊3号機は来年着工し、六ヶ所村再処理工場は3年後、動くのである。日本人は、皆、眠りについている。木が切られるとか、ナキウサギが、絶滅するとか、その程度の事（本質は重いのであるが）であると、よくもこんなに沢山人がいると思うくらい、人が集まる。ところが、六ヶ所村――などと言っても、「エ？どこにあるの？」という人がほとんどである。まして、「軍縮」と「再処理」の関係を言っても、反核運動の人でさえ、無知である。国家の思う「ツボ」とは、この様な事を言うのである。

（原爆の日に思うこと）

今年の平和宣言に関しては、広島、長崎の両市長さんは、まずまずの宣言であったと思う。しかし、もっと早くに言うべきで、このタイミングのずれは何なのだ！原爆の運動に関しては、言いたいことが山積している。「日本は唯一の被爆国」というフレーズが、集会で今だに、ちょっぱい人（運動関係者）も発言しているので、そのつど、間違いを指摘させて頂いているが、この人たちは、ネバダやその他の原水爆実験のことを知らないのだろうか。更に、原水協や原水禁までもが、大阪大学教授の黒沢満なる人物を、反核平和の講演会に呼んでいる。（朝日新聞社も）。肩書きを沢山並べているが、彼が、原子力長期計画の委員である事は、どの主催者も掲載していない。原発に積極的な反核活動って何？だから反戦運動は質が低いのである。

本と暮らす

小松　ともみ

(21)「ハリー・ポッターと賢者の石」

J.K.ローリング　著
松岡祐子　訳
静山社　刊

私は少し（いや、だいぶ？）ひねくれた性格でして、あのひところの「ハリー・ポッター　ブーム」が熱病のように流行っていた頃は、「ハリー・ポッター？ふん！ファンタジーの王様は第一代が指輪物語、第二代がグイン・サーガだもんね。面白い、面白いっていうけれど、どうせ、著者の成功物語がうけてるんでしょ。そりゃあ、生活保護受けてたシングル・マザーがコーヒー一杯で喫茶店で粘って書いたのが大成功をおさめた、っていう話は女に希望を与えるけれどさあ。小説っていうのは、書かれた背景で読むんじゃなくて、なかみを読むンだからさ」てな反応でありました。

でも、今は違います。このファンタジーは昔むかしに読んだ指輪物語よりも、今も読みつづけているグイン・サーガよりも、一緒に並べられていた「ネシャン・サーガ」よりも、面白いし、女の子を勇気づけるファンタジーだと思っています。

まず、上記に並べられたファンタジーと一線を画するのは、登場人物の男女比と女性の活躍のしかたです。指輪物語と「ネシャン・サーガ」は基本的に男しか出てきません。ちなみに、「ネシャン・サーガ」というのは、このファンタジーブームでなければ、まず訳出されなかったであろう、全３巻の（３冊だけのボリュームで比べると、だいたい「ハリー・ポッター」の１．５倍くらいある）ドイツ・ファンタジーで、「あの、（ミヒャエル）エンデが見出した大型新人の傑作ファンタジー」というのが売りの物語です。これはこれで、物語としてはなかなか面白いものではありましたが、やはり物語の中枢に男しか出てこないのは、ちょっと、ね。「グイン・サーガ」は、知る人ぞ知る、現在進行形の日本発のファンタジーで、「ひとりの人間が書いた物語としては世界最長」ということでギネス・ブックにも載っているものです。物語の構想が雄大なこと（例えば、さまざまに張り巡らされた伏線が８０巻の大台にのってからも次第に明らかになってくるぐらいに物語世界が巧緻に織り上げられている）や、魔法あり・戦争あり・権謀術策あり・ＳＦ的要素ありと物語の楽しみがてんこもりになっていることや、著者が女性であることなどなど、一読の価値はあるものですが、残念ながら著者は「反フェミニスト」というか「男は男らしく、女は女らしく」の世界を理想としているようで、そこらへんでは「あごら札幌」の読者としては、カチンとくるものがありましょう。

なによりも、これらのファンタジーと「ハリー・ポッター」シリーズが違うのは、物語の舞台が現代の学校である、ということろでしょう。この物語が全世界（１４０カ国・２８ヶ国語というのは、ほぼ全世界といっていいのでは？）の男の子にも女の子にも熱狂的に迎え入れられたのは、「現在でも、マグル（魔法を使えない人々）と魔法族とが共存していて、魔法を教える学校がある」「しかも、この学校は男女共学で、マグル出身の子どもでも魔法族の子どもと同様に受け入れる」という基本設定や、この学校がとても魅力的だからではないか、と私は思うのです。

この学校は、いわゆる桃源境ではありません。自分の寮生ばかりエコひいきする嫌味な先生もいれば、なにかと自分が魔法族の名門出身であることを鼻にかけて嫌がらせや意地悪をする生徒もいるし、宿題もどっさりで出ます。でも、みんな、とっても生き生きしています。「食べ物や寝るところの心配をしないで、自分が学びたいことを本気で学べる学校で仲良し３人組（男の子２人と女の子１人）がさまざまな謎に挑戦して冒険する」なんて、凄いことじゃないですか！

とっても現代的なのに、とってもファンタジー。繰り返し読んでも、飽きない、楽しい。わたくしのような、日中のいろいろなイヤなことや神経が疲れることが眠る段になると頭のなかをぐるぐると去来してなかなか寝つけない人間が、安らかな眠りにつくのにも最適な本であることが判明し、このところ５巡目（１巻・２巻・３巻と順繰りに読んでいく）に入っている今日この頃でありました。

ミッチーが好き！ no1

E

◎これが私の更年期？！

今、私はミッチーこと及川光博にハマっている。ＣＤ、ＤＶＤ等を買いまくり、出ている雑誌、テレビ全てチェックしている。何故こんなにもハマってしまったのか？

私は目下、パートナーなし、子どもなし。仕事も慣れた仕事でこの道○○年。いろいろ顔を出していた運動も対象をしぼり、今は仕事中心、遊び中心の割と静かな毎日を送っている。一人暮らしで集まりやすいので友もよく遊びに来る。精神的にもゆとりのある生活で、充実してなくもないが、淡々とした落ち着いた毎日。たぶん渇いていたのだと思う。感情を大きく揺り動かしたかったのだろう。これがもしかして私の更年期なのかもしれない。

あの切れ長な眼の端正な顔立ちも好きだけど、しゃべりの中に垣間見える彼の聡明さが好き！夜寝る前のひと時、パソコンやＤＶＤを見てミッチーに浸っているときの心地よさ。なかなかよい更年期なのではないかと思っている。（続く）

Information

◆広河隆一写真展「アフガン・パレスチナ―戦火の中の子どもたち」
8月21日(水)～25日(日)10:00～20:00
札幌市中央区北2条東4丁目
サッポロファクトリー内ギャラリー「アートファクトリー」
入場無料

板垣雄三さん講演会「対テロ戦争とパレスチナ問題の行方」
8月23日(金)18:00開場 18:30開演
札幌市中央区大通西19丁目　女性センター
入場料500円

◆ドキュメンタリー「軍隊を捨てた国」上映会
8月31日(土)13:30開場　①14:00　②15:40　③17:20　④19:00
札幌市中央区南3条西4丁目アーバンビル7階
前売り1000円(当日1300円)
問い合わせ先:札幌映画サークル(011-747-7314)

◆性教協いしかりサークル学習会「寂しさの行方～十代の性とドラッグ～」
講師　大嶋栄子さん(カウンセラー・「それいゆ共同作業所」代表)
9月7日(土)13:30～15:50
札幌市中央区大通西19丁目　女性センター　洋和裁室
参加費500円
問い合わせ:中泉(011-884-7504　夜間のみ)
申し込み不要・当日直接会場まで(定員30名)

☆☆あとがき☆☆

十勝の「DEMETER」を観てきました。ステージがやはりおもしろかったです。厩や、競馬場職員のひとの宿舎や作業場、パドックなどがそのままなので、こんな所に入るのは勿論初めての私は興味津々。蹄鉄や干草、何でもいじり放題いじってきましタ。オノ・ヨーコの作品も私は好きです。あのひとらしい感じがしました。